

令和3年 10月 1日

報道機関 各位

第25回「人文知」コレギウム 「多様な翻訳の世界～ドイツ語を手がかりに～」

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的に開催しております。「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味です。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります。

令和3年10月20日（水）開催予定の第25回は「多様な翻訳の世界～ドイツ語を手がかりに～」をテーマに、下記の研究発表を行います。詳細は、別添チラシをご参照ください

なお、本研究会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンラインでの開催となります。一般の方々や学生の聴講も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

つきましては、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

記

日時：令和3年10月20日（水） 13時30分～15時30分

開催：オンライン開催（Zoom） 定員290名 ※事前登録が必要です。

発表：阿部美規（ドイツ言語文化・准教授）「犯罪捜査の言語学～「白バラ」のピラを例に～」

宮内伸子（ドイツ言語文化・教授）「翻訳を通じた言語対照研究」

以上

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 人社系総務課（人文担当）
TEL. 076-445-6131

第25回「人文知」コレギウム

2021年10月20日(水) 13:30~15:30

学生・一般の方の聴講歓迎・無料・要事前申込

犯罪捜査の言語学 ～「白バラ」のピラを例に～

阿部 美規 (ドイツ言語文化・准教授)

13:30~14:30

テキストをデータに「翻訳」する方法を用いて、すなわちテキストのもつ特徴を数量化しテキストを分析する計量文献学の手法を用いて、第2次世界大戦中のドイツで反ナチ抵抗運動を呼びかける目的で頒布された「白バラ」のピラを鑑定することを試みる。従来になされた「人文科学的」鑑定の結果とも比較しながら、著者推定に関する計量文献学的調査の利点や問題点を示したい。

翻訳を通じた言語対照研究

宮内 伸子 (ドイツ言語文化・教授)

14:30~15:30

日本文学作品とそのドイツ語訳（および英語訳）を対照させて、それぞれの言語にとって得意な表現、好まれる表現を確認し、言語による発想の違いの解明を試みる。これまでに、吉本ばなな、川端康成、三島由紀夫、太宰治、宮部みゆき、山田太一、北杜夫、開高健の作品を取り上げ、直喩、恩恵授受表現、終助詞、人称代名詞等さまざまな観点から考察してきた結果を報告する。さらに日本の伝統文芸である俳句の翻訳についても触れる。

多様な翻訳の世界

ドイツ語を手がかりに



オンラインZoom開催(要事前申込)

下記URLまたはQRコードからお申し込みください。

(申込締切:2021年10月17日(日))

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe0BirQMzZSZ7AD6df-dpl0emSs2FtQSSgBFbJpiMhtOLt1iw/viewform?vc=0&w=1&flr=0&usp=mail_form_link

お問い合わせ 富山大学人社系総務課(人文担当)

jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp